

## 第5回 疑問文

教科書の該当ページ：33～35 ページ、42～43 ページ、63～64 ページ

**疑問文** → 教科書第4課③、第5課②

はい、いいえで答える疑問文は、疑問を表わす小辞-ko あるいは-kö を単語につけて、その単語を文頭に置くことで表わします。-ko あるいは-kö は通常動詞につきます。-ko と-kö は母音調和によって決まります。

例) 彼女はフィンランド語ができます。 Hän osaa(動詞) suomea.  
彼女はフィンランド語ができますか? Osaako hän suomea?

ただし、疑問の焦点が名詞である場合は、-ko あるいは-kö を名詞につけることもできます。-ko あるいは-kö がついた名詞は文頭に置かれます。

例) 彼女はフィンランド語ができるんですか? Suomeako hän osaa?  
(他の言葉ではなくて、という意味)

**疑問文の答え方** → 教科書第4課③、第5課②

-ko あるいは-kö を使った疑問文に「はい」と答える場合、-ko あるいは-kö をつけた単語を使って答えるのが正式ですが、Kyllä. あるいは Joo. と答える場合もあります。

例) 彼女はフィンランド語ができますか? Osaako hän suomea?  
はい。 Osaa. あるいは Kyllä. / Joo.

彼女はフィンランド語ができるんですか? Suomeako hän osaa?  
はい、フィンランド語ができます。 Suomea. あるいは Kyllä. / Joo.

-ko あるいは-kö を使った疑問文に「いいえ」と答える場合は否定動詞を用います。否定動詞は「ない」という意味を表わしますが、主語の人称と数に合わせて次のように形が変わります。

	単数	複数
1 人称	en	emme
2 人称	et	ette
3 人称	ei	eivät

例) 彼女はフィンランド語ができますか? Osaako hän suomea?  
いいえ。 Ei.

彼女はフィンランド語ができるんですか? Suomeako hän osaa?  
いいえ、スウェーデン語ができます。 Ei, vaan ruotsia.

**否定文** → 教科書第7課⑦

否定文でも、疑問文に「いいえ」で答える場合と同じように否定動詞を使います。そのとき、対応する肯定文で使われていた動詞は否定形になります。否定形は、人称語尾を取った形、つまり語幹の形です。

例) 私はヘルシンキに住んでいます。	Minä <b>asun</b> Helsingissä.
私はヘルシンキに住んでいません。	Minä <b>en asu</b> Helsingissä.
彼はヘルシンキに住んでいます。	Hän <b>asuu</b> Helsingissä.
彼はヘルシンキに住んでいません。	Hän <b>ei asu</b> Helsingissä.

**疑問文：どこから** → 教科書第5課①

フィンランド語では、「～(場所)から」を{中から}格と呼ばれる格で表わします。{中から}格には語尾-sta あるいは-stä がつきます。-sta と-stä は母音調和によって決まります。

例) 列車はオウルから来ます。	Juna tulee Oulu <b>sta</b> .
	列車 来る オウル({中から}格)

場所がわからなくて、「どこから」と訊きたい場合は、{中から}格を疑問詞 **mistä** で置き換えて文頭に置きます。主語と動詞の語順は変わりません。

例) 列車はどこから来ますか?	Mistä juna tulee?
	どこから 列車 来る

**所有接尾辞** → 第4課⑤

前回見たように、所有者が人称代名詞の場合は、属格を使う代わりに所有接尾辞を使います。所有接尾辞は所有者の人称と数によって決まっています。所有者が1人称複数の場合は所有接尾辞-mme、2人称複数の場合は所有接尾辞-nne がつきます。

例) ユッシの家 Jussin talo	⇔ 私たちの家 talom <b>me</b>
	君たちの家 talon <b>ne</b>

**所有文** → 第4課⑦

「AはBを持っている」は、「AのところにBがある」と考えて、A({所で}格)+ある(動詞)+B(主格)で表わします。動詞は、Aの人称・数に関わらず、常に3人称単数形になります。

例) ユッシは券を持っています。	Jussilla on lippu.
	ユッシ({所で}格) ある 券(主格)
私は券を持っています。	Minulla on lippu.
	私({所で}格) ある 券(主格)